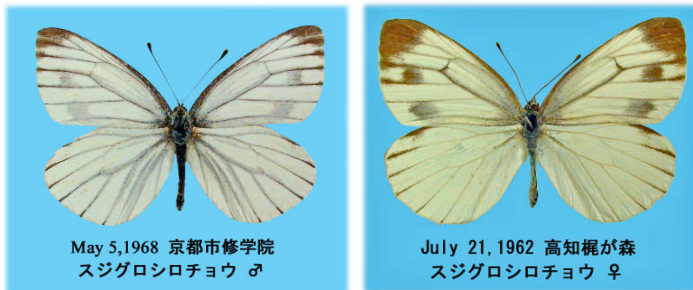


スジグロシロチョウは、遠くからみるとモンシロチョウとほとんど同じにみえ、実際、いまだにスジグロシロチョウというシロチョウがいることさえ知らない人が多いと思われます。間近でじっくりとみれば、名前のおり翅表にはっきりとした黒い筋があるので本来判別は容易です。

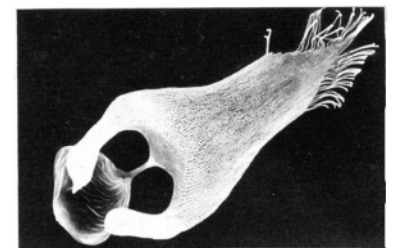


モンシロチョウ同様、♀は黒い鱗粉が目だっていて簡単に区別がつけます。本種には非常によく似たエゾスジグロシロチョウという近縁種がいるのですが、最近、北海道内にいるエゾスジグロシロチョウが2種に分類区別できることが分かり、故白水隆博士の最後の著書「日本産蝶類標準図鑑（学研、2006、

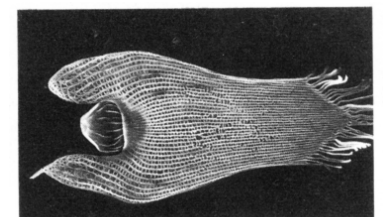
p.61-62）によれば、石狩平野より東にいる種を従来どおりエゾスジグロシロチョウとし、石狩平野以西と本州以南に生息する群をヤマトスジグロシロチョウと改めてよぶことになったことが分かります。石狩平野では両種が混生するとの説明もあります。

ところが、私が会員となっている日本鱗翅学会会報「やどりが」の最新号（No.19、2009）に、山形、宮城以南の本州、四国、九州に生息する上記ヤマトスジグロシロチョウを新称：シロウスズジグロシロチョウとして独立種扱いするのがいいという話がでてくるなど、いつそややこしくなっています。どういう和名に落ちつくかは様子を見ることとして話を進めます。

スジグロシロチョウは、近縁の現名ヤマトスジグロシロチョウとはあまりによく似ているため外見からの判別が容易ではないのですが、前翅の黒斑点模様がヤマトでは丸く、スジグロでは方形だという点で一応の判別ができます。より厳密には、発香鱗という♂が♀を誘引するために匂いを放つもととなる鱗粉を顕微鏡で観察すれば顕著なちがいがあがるそうです。参考のために、牧村功著「日本の蝶」（成美出版、1994、p.440）からスジグロシロチョウとエゾスジグロシロチョウの発香鱗を図示しますが確かに差があります。手持ちの顕微鏡を使って実際に調べてみたく、インターネット検索を駆使してこの方ならとメールで問合せたところズバリ的中。発香鱗研究歴のある方で、発香鱗は羽全体に散在分布していて顕微鏡ではこういう方法で見ればいいと、知りたかったことをクイックレスポンスで教えてくれました。なにより、私のメールを出張先で受け取って、手元に参考資料がない状況下ホテルで記憶をたどりながら記述されたという内容は実に具体的で分かりやすく、一番知りたい発香鱗の違いをきれいな略図で示してくださるなど、ていねいで心のこもったありがたい返信でした。現在手に入る専門的な蝶類図鑑の多くが「発香鱗を調



スジグロシロチョウの香りん



エゾスジグロシロチョウの香りん

べれば両種の識別ができる」とだけの記述で具体的な説明がまったくないのは不親切です。ちょっとむずかしい話になってしまいましたが、スジグロシロチョウは北海道から屋久島まで分布するごく普通種なのに高砂市内ではまずみられなく加古川の里山地区まで足を運ぶ必要があります。私は、高砂でも阿弥陀町市ノ池公園や竜山周辺の環境であれば発生している可能性があるとみて今後注意して調べますが、高砂は加古川などにくらべて近畿地区ではごく普通のチョウが生育できない、いかに野山の自然が少ないところかを痛感します。